

# 恵みと真理のニュース



2013年12月の三次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養5洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

## [証]

### 天国で再び会う日を願い、

### 父親を救ってくださった神様の恵みに感謝を捧げます。



私は主日の教会学校とミッションスクールを通いながら聖書を習って信仰生活をしました。信仰が深く根を下ろしてない状態で教会と世のなかであちこち迷う時が多かったですがそのたびに目に見えない主の手は私を掴んでくださり信仰の道を歩くようにしました。1997年仏教を信じる家庭の長男である旦那に出会って付き合い始めました。結婚の話をする時に姑は“性が合わない”“教会に通う女と結婚すると家庭がよくなる”など言葉にならない理由をして私達の結婚を強く反対をしました。その反対を押し切って結婚してソウルの旦那の実家の近くで新婚生活を始めました。主日になると私は姑を気にしながら銭湯に行く嘘をついてタオルのなかで聖書を隠して教会を通いました。一年後、神様は建設会社に通う旦那を水源で勤務地を移す整理して下さって自然に分家されました。それで御言葉と聖霊充滿な恵みと真理教会で自由に礼拝中心の生活ができました。神様の恵みと区域長をはじめ聖徒の愛と配慮で新しい生活の様々な苦しみと救いを耐え抜いて信仰の目が萌え出す頃、1993年ある日、私と家族に予期しなかった大きな試練が迫って来ました。父親の事業を始めて何ヶ月経ってないご事業が不渡りしました。父親は債権者達を避けて家を出て家と工場は一朝にして競売で人手に渡りました。母と弟達も夜逃げして家族みんなばらばらになりました。父が事業を始めながら私の旦那の家族にもお金を借りたので私の心の苦痛は表現できないほどでした。なぜ私にこんな試練をくださるか奇問でした。どころが祈りのなかで“わたしは裸で母の胎を出た。”“でそこに帰ろう。”主は与え、主は奪う。主の御名はほめたたえられ。(ヨブ1:21)という御言葉と人間の心は自分の道を計画する主が一步一歩を備えてくださる。(箴言16:9)御言葉が思い出しました。神様を離れてはなにもない人間の無能と無力さを切に悟りました。命をはじめ私が持っている全ての主人である絶対的な主権者である神様の前で悔いでもっと熱心に畏れなく愛しなかつたことを悔い改めました。神様の前でもっと祈らなかつた事と家族の救いのため最善をつくさなかつたことも悔い改めました。難と試練を通して実際に神様だけ畏れ頼れ愛する神本主義の信仰の足を踏みみました。次の年に水の洗礼を受け熱心に信仰生活をするうちに1995年には区域長の職分を受けました。“何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これ

らのものはみな加えて与えられる。”御言葉に従順して任された職分に忠誠して主のことに力を入れると真実な神様の助けと摂理ですぐ父親が残した謝金を全部返す事ができました。神様は天国の祝福で満たしてくださいました。神様の恵みと愛を受けられ平安な生活をすするうちに私の心の中ではとげのようなものに刺さることがありました。生死も分からない父親の行方が知りたくて懐かしかったです。家を出してから5年が経ち長い間父親を捜すためあちこち行方を調べましたが捜せませんでした。そして生死確認のため祈っているある日“父が家出してから金融失明制が投入したのでもし、生きているなら確かに仕事をしているから金融の取引をしているかもしれないと思ひ出しました。しかし、銀行も多しけれども記録があったとしてもプライバシー侵害などの理由で教えてくれないとどうしようも心配になりました。しかし、この知恵が私から出たものではなく祈りのなかで神様がくださった知恵だと思ひ良い方法があると信仰で考えました。考えるうちに親戚の兄が農協で勤務している事が思ひ出しました。すぐ連絡をしたら一時期退職してちょうど最近再び契約職で働いていました。もう私の家庭の事情を浴していた親戚の兄は父の住民登録を聞きちょっと沈黙の時間が経って父親の新しい住所を教えてくださいました。夢のようでした。警察署をはじめあちこち探しても知ることができませんでした。父の行方を神様が教えてくださいました。昔の事にもかかわらずまるで昨日のことようなその日の喜びと感激と恵みは今も私の心をどきどきします。私に父親の話も聞いても私の家族はお互い自分の痛さと意地を言いがら今も恨み不平視ながら父親を知らんぷりしました。心のドアを閉めて連絡さえも避けて暮らすほどでした。私も父親の生死を確認してすぐ捜しに行けなくて父親を知らんぷりする母と弟達が薄情で憎みました。2012年6月ある日 父が血を吐き出して応急室に運ばれました。やっと病院に走って父親の危篤な状態である事を確認してから伝道士と区域長に祈りながら私も切に父親のため涙を流しながら祈りました。病院で何回検査をしてから大動脈流という診断を受け手術をしなければならぬと言われなりました。子供たちと母を見る目がないから手術を拒否する父を説得してやっと手術の日を決めました。今やる事は何よりもまず父親を主のところに導く事でした。病院から帰って来てすぐ次の主日10月のはじめの聖餐礼拝時に始めて父親と礼拝を捧げました。神様の御言葉を聴き慰め

と力を得、聖霊で主を受け入れ手術がよくなることを願いながら礼拝捧げる時間に病弱な父の手を握って涙を流しながら神様を仰ぎました。その日に父はイエス様を受け入れました。次の日、再び入院してから11時間にかけて大手術を受けました。二日が過ぎてても意識が戻ってなかつたので医師は心の準備をすると言われれました。連絡を受けた大教区長牧師が一走りで行って祈ってくださって祈ってくださるとその日の奇跡的に父が意識が戻り私に明るい笑顔をすして11日が経って平安な姿で天国に召されました。悲しみと苦しめない永遠な安息の神様の国に住所を移しました。病院にいる間教会で“神癒と祝福の電話を通して当会長の牧師の御言葉と祈りを父に聞かせました。私がやる事が祈る事しかなかったからです。そのように父のため祈っている中で人生の無常を観ずり、生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。わたしが今、肉において生きているのは、わたしを愛し、わたしのために身を献げられた神の子に対する信仰によるものです。(ガラテヤ信徒への手紙2:20)御言葉の意味を切に悟り私の過ちを振り替え悔い改めました。今までは主の哀れみと愛がなくして立法と世の目で判断したバリサイ人でした。腐ることを嫌がった種であった主の前でひれ伏して割れない器でしたのでキリストの香りがしなかつたです。主は“わたしをお遣わしになった方の御心とは、わたしに与えてくださった人を一人も失わないで、終わりの日に復活させることである。(ヨハネの福音書6:39)おっしゃいました。この約束の御言葉の通り天国で父を再び会う日を規約しながらまだ救われてない実家の家族を主のところへ導くことを最善を尽くします。失われた羊を探す羊飼いの心で、滅亡の道に行く人々に福音を伝える事に津からを尽くします。この証を書こうとして過ぎし日思い出し私に私の人生で神様がくださった恵みは数えられないほど多かつた事を告白します。私に全ての恵みを悟るようになつてくださり変化してもっと大きくもちいてくださって神様に感謝を捧げます。父の葬式を通じて不信の家族に福音の光も与えてくださった事も感謝し私に悲しみよりもっと大きい慰めと力を与えてくださり希望で満たした下さった事も感謝を捧げます。ハレルヤ!

## [信仰コラム] 私(わたし)の私(わたし)の事と神(かみ)様(さま)の恩(おん)



“しかし、神の恵みによって、わたしは今日あるを得ているのである。そして、わたしに賜わった神の恵みはむだにならず、むしろ、わたしは彼らの中のだれよりも多く働いてきた。しかしそれは、わたし自身ではなく、わたしと共にあつた神の恵みである。…”(コリントの信徒への手紙一 15:10)

人(ひと)の生涯(しょうがい)で最大(さいだい)の事件(じけん)は、イエス・キリストを信(しん)じるようになったのです。それによる変化(へんか)と経験(けいけん)を凌駕(りょうか)しようとすることはありません。ですからキリスト人(にん)は自分(じぶん)が経験(けいけん)した変化(へんか)が何(なん)なのか、その変化(へんか)がどのようになつて起(お)こつたか話(はな)すことになつてます。その変化(へんか)と経験(けいけん)を圧縮(あつしゅく)した表現(ひょうげん)が“私(わたし)の私(わたし)の事”という神(かみ)様(さま)の恩(おん)になったものです。この言葉(ことば)です。この言葉(ことば)は使徒(しと)パウロの告白(こくはく)だけでなく、すべてのキリスト人(にん)の告白(こくはく)です。このような事実(じじつ)に対(たい)する悟(さと)りの深(ふか)さと感激(かんげき)の大(だい)きさが日増(ひま)しに加(くわ)えて行(い)かなければなりません。まず、“私(わたし)の私(わたし)の事”という言葉(ことば)に含蓄(がんちく)されている奥(おく)深(ふか)い意味(いみ)を ご覧(らん)ください。“私(わたし)の私(わたし)の事”という言葉(ことば)は、自分(じぶん)の身(み)に起(お)こつた変化(へんか)を表(あらわ)す言葉(ことば)です。今(いま)の私(わたし)は、以前(いぜん)の私(わたし)がないうち(じこ)認識(にんしき)を 表(あらわ)す言葉(ことば)です。神(かみ)様(さま)について、人間(にんげん)の救済(きゅうえん)についてそしてキリスト教会(きょうかい)において、彼(かれ)が持(も)つた認識(にんしき)と態度(たいど)がとても違(ちが)います。以前(いぜん)にパウロはキリスト教会(きょうかい)を破壊(はかい)するも、キリスト教(きょう)人(にん)を除去(じょきよ)するも、神(かみ)様(さま)を仕(つか)えることだと知(し)って実践(じっせん)しました。

今(いま)は教会(きょうかい)を設立(せつり)し、教会(きょうかい)の働(はたら)き手(て)を養育(よういく)するのが神(かみ)様(さま)を仕(つか)えることだと知(し)って実践(じっせん)するようになつた。彼(かれ)が復活(ふっかつ)した神(かみ)様(さま)に会(あ)つて聖書(せいしょ)に予言(よげん)されたメシア(めしヤ)と表(あらわ)す真理(しんり)について正(ただ)しい知識(ちしき)と信頼(しんらい)を持(も)つようになつたためです。むしろ皆(みんな)さんもキリストを信(しん)じて 以前(いぜん)の私(わたし)は神(かみ)様(さま)を遠(とお)く離(はな)れていながら歳月(さいげつ)を無駄遣(むだづか)いして滅亡(めつぼう)に向(む)かって行(い)つた者(もの)でした。ところがイエス・キリストを信(しん)じた後(あと)の今(いま)はすべてが変(か)わりました。今(いま)の私(わたし)は救済(きゅうえん)を得(え)た者(もの)がなりました。今(いま)の私(わたし)は人生(じんせい)の意味(いみ)と目的(もくてき)を知(し)ってこれをために生(い)きていきます。今(いま)の私(わたし)は天国(てんごく)の望(ぞい)みと復活(ふっかつ)の望(ぞい)みを持(も)つて生(い)きています。今(いま)の私(わたし)は主(しゅ)がくれる賞(しょう)を期待(きたい)しながら暮(く)らしています。次(つぎ)は、“神(かみ)様(さま)の恩(おん)になったのだから”という言葉(ことば)に含蓄(がんちく)された奥(おく)深(ふか)い意味(いみ)を ご覧(らん)ください。神(かみ)様(さま)の恩(おん)は、イエスキリストの聖(せい)肉(にく)身(み)と贖罪(しょくざい)の死(し)と勝利(しょうり)の復活(ふっかつ)によつてくれるプレゼントです。神(かみ)様(さま)の恩(おん)は、イエスキリストの霊(れい)になつた聖霊(せいれい)様(さま)の交通(こうつう)を通(つう)じて私(わたし)たちに与(あた)えられます。パウロ使徒(しと)が私(わたし)の私(わたし)の事(こと)は神(かみ)様(さま)の恩(おん)になったのだから”と表現(ひょうげん)したのは私(わたし)が罪(つみ)下賜(か)しされて義(ぎ)人(にん)としてなり、永生(えいせい)を得(え)て、神(かみ)様(さま)の子供(こども)になつたものが神(かみ)様(さま)の恩(おん)になったという言葉(ことば)です。神(かみ)様(さま)の栄光(えいこう)のために住(す)んで、主(ま)を嬉(うれ)しいようにするために生(い)きることも神(かみ)様(さま)の恩(おん)になったという意

味(いみ)です。天国(てんごく)と復活(ふっかつ)の望(ぞい)みを持(も)つていけるようになったのも神(かみ)様(さま)の恩(おん)になったということです。主(ま)がくれる賞(しょう)を受(う)けようと注意(ちゅうい)に努(つと)めていけるのも神(かみ)様(さま)の恩(おん)になったということです。私(わたし)の私(わたし)の事は神(かみ)様(さま)の恩(おん)になったものを確実(かくじつ)に悟(さと)つた人(ひと)に從(したが)う現象(げんしょう)があります。その悟(さと)りの深(ふか)さほど謙虚(けんきょ)に神(かみ)様(さま)を仕(つか)えるようになつてます。神(かみ)様(さま)の能力(のうりょく)に深(ふか)く依存(いぞん)するようになつてます。“私(わたし)はできる。私(わたし)はやればできる。”と言(い)わず私(わたし)に能力(のうりょく)をくれる者(もの)の中(なか)で私(わたし)がすべてのことができます。と語(かた)すことになつてます。神(かみ)様(さま)にいつもありがとうございます。神(かみ)様(さま)の恩(おん)を知(し)らずに滅亡(めつぼう)の道(どう)で行(い)く人(ひと)を見(み)るとき、氣(き)の毒(どく)で、氣(き)の毒(どく)にこころを持(も)つて福音(ふくいん)を伝(つた)えることになつてます。また、集(あつ)まることを努(つと)めて聖徒(せいと)のために自(じ)発(はつ)的に樂(たの)しい氣持(きもち)で奉仕(ほうし)に励(はげ)むことになつてます。キリスト人(にん)としながらもこのような現象(げんしょう)が從(したが)わらない者(もの)はその理由(りゆう)が神(かみ)様(さま)からもらった恩(おん)に対(たい)する氣(き)づきが深(ふか)くないためです。皆(みんな)さんは神(かみ)様(さま)の恩(おん)に対(たい)する氣(き)づきが日増(ひま)しに加(く)わることを願(ねが)っています。いつも謙遜(けんそん)して絶(ぜつ)えず神(かみ)様(さま)の能力(のうりょく)に依(い)ぞんして、凡事(ぼんじ)に感謝(かんしゃ)して、傳(つた)へるに努(つと)め、集(あつ)まることを努(つと)め、奉仕(ほうし)に努(つと)めながら生(い)きようになることを願(ねが)っています。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」

## 根本的で必須なさいわい



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

さいわいをもらう話をすれば誰も耳が気が向きます。しかしさいわい何なのかと問えば明瞭に答える人は多くないだろう。しかし一応言い始めれば元気な身、経済的な余裕、やりがいのある社会活動、平穩な家庭などを指折り数えるでしょう。この皆がこの世の中に住むうちに肉身の安楽に係わるものなどです。聖書にはこのようなものをさいわいの要件と認めながらもっと根本的な要素を扱っています。そして必須なさいわいの要素たちを啓示しています。今日はヨハネの黙示録に“さいわいがあり”と明示されている句節たちを持って根本的で必須なさいわいの要素に関してよく見ます。

### 第一は、黙示録 1 章 3 節に記録されています。

この預言の言葉を朗読する者と、これを聞いて、その中に書かれていることを守る者たちとは、さいわいである。時が近づいているからである。”と言いました。

ここで“予言の言葉”は狭い意味ではヨハネ黙示録に記録された言葉を示すが広い意味では聖書を示します。先に、聖書を読む者がさいわいであると言いました。印刷術の発達と聖書の翻訳者たちが苦勞したおかげで今私たちは誰も願えば自分の聖書を持つことができる時代に暮しています。聖書を所有することは恵まれた事です。しかし聖書を読むという前題下で恵まれた事です。

次は、この予言の言葉を聞く者等がさいわいであると言いました。今日の教会では説教者がいて聖書句節たちを悟った心で詳しく説明してくれます。ローマ書 10 章 17 節に“したがって、信仰は聞くことによるのであり、聞くことはキリストの言葉から来るのである。”と言いました。心を開いて耳を傾けて神様の言葉を聞く人は救いに至る信仰を得るようになって神霊な信仰を得るようになります。これがさいわいです。またこの予言の言葉を守る者等がさいわいであると言いました。神様の言葉は読んで聞く者に従順を要求します。神様の言葉に従えば考えと言葉と行動が変化されます。そんなにすれば聖書的な思考、聖書的な言語、聖書的な生の方式で生きて行くようになります。予言の言葉、聖書に記録された神様の言葉に順従すれば神様がその人の生涯を責任を負います。これはまことに大きなさいわいです。

### 二番目は、黙示録 14 章 13 節に記録されています。

“またわたしは、天からの声がこう言うのを聞いた、「書きしるせ、『今から後、主において死ぬ死人はさいわいである』」。御霊も言う、「しかり、彼らはその苦勞を解かれて休み、そのわざは彼らについていく。」” しました。すべての人は元気に生きて、長生きしてから平安にご臨終なのを願います。

このような願いのどおり生きて死を迎える人を見る時“さいわいである人だ”と言います。しかしそれだけで“さいわいである人”と断定することができません。恵まれた死なのか不幸な死なのかを区別することは“主において死なのか主の外での死なのか”に従います。“主において”の死と言うのは何の意味を持っていますか？先に、“苦勞を解かれて休み”と言いました。聖徒たちの死は永遠な安息に入って行く関門です。イエス様は神様を信じて迎接する者には世の中で与えることとは違う喜びと平安をくださって心に休むことを得るようにします。そして窮極的には死の向こう側で永遠な安息を得るようになります。次は、“私どもの行った事が従うのだ” しました。私たちがこの世の中に住むうちに主の仕事に力をつくして苦勞したどおり褒め言葉と賞を受けるようになるという言葉です。死を当たるようになった理由と状況は“主においての死なのか主の外での死なのか？”することに比べれば無視しても良いに値するのです。世の中に住むうちにいくらよく暮らしても主において住むことができなかった人には死が苦痛と絶望に入って行く門になってしまいます。しかしイエスキリストを信じて仕えながら生きて死ぬ人、主において死を迎える人は誰もさいわいであり、彼らに死と言うのは永遠な安息に導いて褒め言葉と賞をくださる神様の前に進む過程に過ぎないからです。

### 三番目は、黙示録 16 章 15 節に記録されています。

“見よ、わたしは盗人のように来る。裸のまま歩かないように、また、裸の恥を見られないように、目をさまし着物を身に着けている者は、さいわいである。” しました。ここで着物と言うのは聖書のどおり信じる信仰を意味します。人間の知識と非聖書的な神学思想に魅かれるとか惑いされて純然な信仰を投げ捨てれば彼の魂は裸になった状態になってしまいます。私たちの信仰は全面的に聖書に根拠したことでなければなりません。聖書の言葉に及ぶ事ができないとか聖書の言葉を超えて外れて行くどんな哲学や思想そしてどんな教理でも排撃しなければなりません。今日には客観的基準、絶対的権威が排撃されて自分勝手に行うことを美德で思う時代になりました。人に喜ばれて、人のほめの言葉を受けようと汲汲しています。そして聖書のどおり信仰を脱ぎ捨てて裸になった恥を持ち出しながら歩き回る聖職者と教人たちが増えていることは切ない事です。いつも覚めていて聖書のどおり信仰を最後まで守ることで裸になって通わなくて自分の恥ずかしさを見えない皆さんはさいわいであり、

### 四番目は、黙示録 19 章 9 節に記録されています。

“それから、御使はわたしに言った、「書きしるせ。小羊の婚宴に招かれた者は、さいわいである」。またわたしに言った、「これらは、神の真実の言葉である」。” 言いました。ここに小羊の婚宴と言うのはイエス様を信じてあがないを受けた聖徒たちがイエスキリストと一つになってイエスキリストとともに永遠に真正な喜びを享受するようになることを比喩的に表現した言葉です。聖徒たちの天国生活は実に喜びの日々になるでしょう。その所には死亡がなくて哀痛することや大声で泣くのがなくて痛いのがないし呪いがなくて夜がないし憎らしいことや偽りまたは偽りを言う者がいなくて悪魔もありません。(黙示録 121:4, 27, 22:3, 5)

イエスキリストを信じる人は皆この嬉しくて幸せな宴に招請を受けた者です。“これは神様のまことらしい言葉だから”と言いました。小羊の婚宴に請ずることを受けた皆さんはさいわいであり、

### 五番目は、啓示録 20 章 6 節に記録されています。

“この第一の復活にあずかる者は、さいわいな者であり、また聖なる者である。この人たちに対しては、第二の死はなんの力もない。彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストと共に千年の間、支配する。” しました。

復活と死亡には二つの種類があります。復活には聖徒たちの復活と不信者たちの復活があります。聖徒たちの復活を第一復活あるいは命の復活だと言って、不信者たちの復活を審判の復活だと言います。(ヨハネによる福音書 5:29) 死亡には第一死亡と二番目死亡があります。すべての人の死が第一死亡に属します。二番目死亡は不信者たちが審判の復活をした後最後審判を受けてわずか硫黄で燃える池に投げられることを言います。第一復活に参加する者のさいわいを二つ記録しました。その中に一つは、二番目死亡が彼らを治める権勢がないと言いました。審判を受けて硫黄で燃える池に投げられる心配する必要が全然ないところです。他の一つは、彼らが神様とイエスキリストの祭司になって千年の間イエスキリストといっしょに支配するとしました。第一復活に参加した者は直接神様の前にひいて神様の来臨を享受して付き合いを分けるようになるでしょう。そして王権を所有してキリストといっしょに千年の間統治するようになるでしょう。聖徒たちは第一復活に参加するようになるはずなのでさいわいであり、

### 六番目は、黙示録 22 章 14 節に記録されています。

“いのちの木にあずかる特権を与えられ、また門をとおって都にはいるために、自分の着物を洗う者たちは、さいわいである。” しました。ここにおっしゃる着物はイエスキリストによって得られるようになる義のあることと聖潔することを意味します。どんな人為的な方法でも罪人が義のあるようになれないです。私たち罪を代わりに担当して十字架に釘を打たれたイエスキリストが流した血として貞潔になる道だけです。コリント人への第一の手紙であなただがキリスト・イエスにあるのは、神によるのである。キリストは神に立てられて、わたしたちの知恵となり、義と聖とあがないとになられたのである。(コリント人への第一の手紙 1:30) しました。私たちは徹頭徹尾イエスキリストのあがないの恵み、血の能力を頼らなければなりません。イエスキリストによる義の服を着た者は新しいエルサレム城の真珠門を通じて生命木がある城の中に入って行くようになるでしょう。イエスキリストが流したあがないの血で洗い受けて義の服を着た皆さんはさいわいであり、

今日はヨハネ黙示録に“さいわいである”と明示されている句節たちを持って根本的で必須なさいわいの六種をよく見ました。皆さん皆このようなさいわいを受けた聖徒として主の神様に賛美を申し上げて喜んで感謝しながら生きて行くように願います。